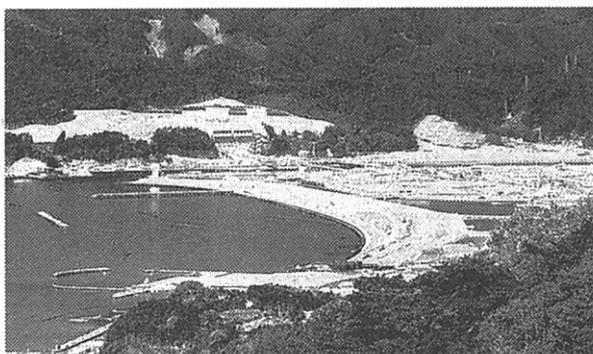


日刊建設通信新聞（2016年3月11日付 第2部32面掲載）

【主要建設コンサルタントの代表的な取り組み
オリエンタルコンサルタンツ 専門技術をコーディネート】

オリエンタル
コンサルタンツ



事業区域全景

専門技術をコーディネート

オリエンタルコンサルタンツは、2011年10月に「東日本大震災の被災状況に対応した市街地復興パターン詳細検討業務(その19)」をURリンケージ・菊池技研コンサルタントとのJVで国交省都市局から受注し、岩手県陸前高田市の震災復興事業を開始した。現況調査やまちづくりマスタープランに基づき、高田地区を対象に土地区画整理事業によって震災復興をどのような規模やスケジュールで実施するかを示す基本計画を策定した。この基本計画では、津波に対して安全・安心なまちをつくるために宅地を10%かさ上げする計画を立てた。また、生活・住宅の再建として、宅地や商業地の配置の基本的な考え方、プランニングを行った。さらに、なりわいの再生に向けて、道路交通のネットワーク、避難計画の立案などを検討した。12年度から13年度にかけては、より熟度を上げるため、基本設計を行った。現在は、清水建設を5社JVの代表とするCMR（コンストラクション・マネジャー）で、調査・測量・設計の部門を担当し工事を進めている。

より良いまちを早くつくり、品質の高い成果を上げるためには、専門の技術を集結して行う必要があると指摘する。コンサルタントとして、専門技術を素早く事業に対して提供する必要性を痛感、そのためにいろいろな企業と情報共有しながら、日ごろから付き合っていくことが大事だと実感したという。セクショナリズムの壁を越え、それぞれの専門家の意見を上手く聞き取れるような組織づくりとコーディネートが必要とし、今後もそうした手法を取り入れながら魅力ある陸前高田づくりの新しい事業に貢献していく。